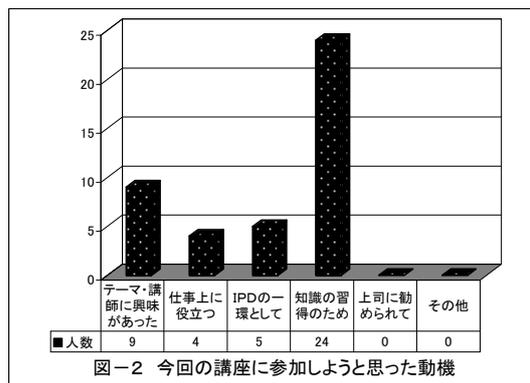


「7月度研修会／先端研」報告

修習技術者支援実行委員会 委員補佐
 榊 勲 修習技術者(原子力放射線部門)

1. 研修会／先端研概要

日 時 平成 21 年 7 月 11 日 (土)
 13 : 00～20 : 00
 主 催 社団法人日本技術士会
 修習技術者支援実行委員会
 会 場 日本技術士会葺手第二ビル 5 階



2. 研修会／先端研の内容

開催説明・講師紹介	13:00~13:10
修習技術者支援実行委員会	原 洋介
講演① 「社会が求める技術者の倫理とその背景」 名古屋工業大学大学院 工学研究科准教授	13:10~14:00 藤本 温 氏
講演② 「企業不祥事と内部統制」 技術士（建設部門、総合技術管理部門）、(株)フジタ	14:00~14:50 岡田恵夫 氏
講演③ 「製品事故と技術者責任」 技術士（化学部門） 東京農工大学大学院 技術経営研究科准教授	15:00~15:50 中村昌允 氏
第 270 回先端複合技術研究会 司会	16:10~18:00 高橋 康朗
懇親会	18:00~20:00

4. 研修会状況について

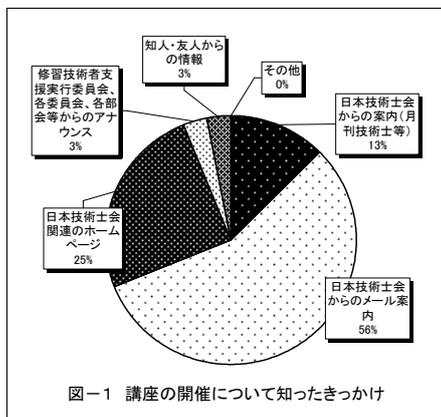
今回の研修会の課題は、「行動原理」－技術者倫理と社会的責任、環境、安全－であり、自分の技術業務の社会的な責任や、環境へ及ぼす影響、安全対策の方法を考える上で貴重な研修会となった。



写真 1 : 研修会の状況

3. 研修会の参加者

今回の研修会の参加者は 38 名であり、幅広い年齢層、さまざまな技術士部門からの参加があった。また、参加するきっかけを図 1 に、参加の動機を図 2 に示す。



◆ 講演①について

名古屋工業大学准教授の藤本氏の講演では、近年会社が考えるモラルと社会が要求するモラルに隔たりが生じており、その隔たりがさまざまな企業不祥事の原因となっていることが紹介された。

また、技術者が社会に受け入れられていくには以下の順で重要であることを述べられた。

- ① 公衆・顧客のことを考える。
- ② 経営管理、利益、社員の生活を考える。
- ③ 地域社会に対する貢献と責任を考える。
- ④ 株主のことを考える。

最後に、倫理に関する問題は年々複雑化しており、この問題に対処するには、原理原則に返ることが必要であること、原理原則は「公衆の安全、健康、福利」に基づいたものでなければならないことを述べられた。



写真2：藤本氏の講演状況

◆ 講演②について

技術士の岡田氏の講演では、企業の不祥事には、2つのタイプ、組織目的の歪に起因するものとリスク防御のための統制不良に起因するものがあることが報告された。

前者の場合には、組織の努力は必然的に「失敗」あるいは「破綻」に向けて結集されること、後者の場合には、組織目的は正しいものであっても、リスクマネジメントが確立されていないために遅かれ早かれ痛手をこうむる結果になることを述べられた。

また、企業の不祥事を回避するための内部統制の方向としては、常に組織の改善を行い、コンプライアンス体制の強化を図りつつ、企業価値を向上させていくことが必須であることも報告された。



写真3：岡田氏の講演状況

◆ 講演③について

東京農工大学教授の中村氏の講演では、以下の具体的事例を挙げ、それらの事故原因や社会に与えた影響が報告された。

- ・ こんにゃく入りゼリー窒息事故

- ・ 家庭用カビ取り剤中毒事故
- ・ シュレッダー巻込まれ事故
- ・ 瞬間湯沸し器中毒事故
- ・ 自動車リコール隠し事件

また、製品安全に関しては、製造者に係る責任（開発、設計、製造）と消費者の責任（使用方法を守るなど）があり、消費者と製造者が作る安全文化が必要であると述べられた。



写真4：中村氏の講演状況

5. 先端複合研究会

先端複合研究会では、修習技術者2名（岡部知行氏、後藤允弘氏）技術士1名（秋葉恵一郎氏、化学部門）からの発表があった。

岡部氏からは、「半導体リソグラフィーについて」と題して、光学技術を用いた半導体の製造過程の微細化技術について、半導体ができるまでの工程を交えて報告があった。

後藤氏からは、「マイクロボティックスを適用した胚操作と自動化」と題して、これまで作業者の技量に負うことが大きかった胚操作（胚細胞の切断、核判別など）を自動化した業務（産学官共同業務）について報告があった。

また、秋葉氏からは、「農林水産業と知的財産権」と題して、農林水産業分野で現在課題となっている内容と知財戦略による解決策について報告があった。また、世界における我が国の競争力を確保するためには、知財戦略による「高付加価値化」と「高価格帯マーケットの獲得」が必要になっていることを述べられた。

6. 懇親会

研修会終了後に会議室で懇親会を行った。多くの方が参加し、講師の方に講演内容の質問をする、他の技術分野の方と交流を深めるなど、有意義な時間を過ごした。

以上